

令和元年度 岡本北小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（具体的な児童生徒像など）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしこい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し高め合える学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生命を尊重する心や思いやりの心など豊かな心、確かな学力の向上、健康や体力の保持増進などたくましく生きる人間力の育成に努める。
- (2) ICT化を進めるとともに、児童の学びを支える安全で潤いのある学校環境づくりに努める。
- (3) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め個々の指導力を高めるとともに、校内の研修会をより充実し、組織としてのチーム力の向上を図る。
- (4) 学校、地域、家庭との連携を密にして、地域の教育資源や教育力を活用しながら、開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 校内業務の精選に努めながら、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育課程は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則等の諸法律、小学校学習指導要領、栃木県教育委員会の指導方針、宇都宮市教育委員会の指導方針、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 「1 学校教育目標」及び「3 学校経営の方針」「5 今年度の重点目標」に則り、地域や学校、児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7 特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込んだ教育課程を編成する。
- (3) 学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに、教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成
- ・ 本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実

【学 習 指 導】

- 学び合い活動を重視した言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成
- 基本的な学習態度の徹底及び家庭学習の習慣化
- ICTを活用した英語教育や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着

【児童生徒指導】

- 自他の人権を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成
- いじめの未然防止及び規範意識や思いやりの心の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 年間を通した体力向上プログラムの推進
- ・ 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 魅力ある学習課題の設定やICTなどを効果的に活用した提示の仕方の工夫により、「分かる」「できる」授業の展開に努める。 ② 効果的なグループ学習を取り入れたり、テーマを決めて話す場を設定したりすることで、児童が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら学びを深める機会を確保する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方策について研修する機会を充実させる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は約92%であり、指標90%を上回った。 ① 普段の授業で児童の興味を引く課題の設定に努めた。ICT活用については教師間や教師と児童との間に温度差がある。ICTは目的ではなく手段である。 ② 教科に合わせた効果的なグループ活動や道徳のトリオ学習などを取り入れ、対話的に学ぶ機会を積極的に設定した。 ③ 学校課題に関連して、外国語について研修の機会が充実していた。 【次年度の方針】 ①②③日々の授業に生きる授業改善の方策について、研修の機会を充実させる。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 道徳科の授業において、日常生活との関連を図ったり、体験的活動を取り入れたりすることで、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は約91%であり、指標85%及び市の平均88%を上回った。 ①②③ともに実施した。 【次年度の方針】 ① 教職員が日々の生活の中で善い行いやがんばっている児童を率先して見つけ、情報を共有し合う。また、掲示物やお便りを通して児童のよさを発信し、自己肯定感を高める。 ②③継続。

姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、各家庭に配付し、約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、実践できるよう努める。 ② 毎月「ふりかえりタイム」を設定し、きまりやマナーについて自己評価をしたり、朝の打合せ時に生活目標の達成状況等について話し合ったりする場を設け、全職員共通理解の下、継続的に指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約88%であり、作年度より2ポイント向上し、指標85%及び市の平均85%を上回った。 ②月末の「ふりかえりタイム」において定期的に自己評価させたことがきまりやマナーの意識化を促した。 【次年度の方針】 ①学級活動できまりやマナーについて話し合ったことを教室に掲示するなどして、意識の向上を図る。 ②朝会や集会のときに、月の目標が守れているかどうか振り返る時間をもつ。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 85%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行うとともに、状況に応じた黙礼の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談会や学校・学年だより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えるときとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約94%であり、指標85%及び市の平均92%を上回った。 ①②年3回のあいさつ運動強調週間を設け、全校生が参加できるような取組を行ったことが効果的だった。 【次年度の方針】 ①②時と場に応じた黙礼もできるように発達段階に合わせて指導していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 85%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ② 児童が認め合える場を意図的に設定するとともに、教職員も認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。 ③ 道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」などにおいて、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約89%であり、指標85%を上回った。しかし保護者の肯定的回答は約75%であり、指標に届かなかった。 ①②③ともに各学級で実践した。家庭への伝達が足りなかった。 【次年度の方針】 ①②③継続。 学校での望ましい様子を家庭に伝える場を多く設ける。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →保護者 90%以上	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導する。 ② テレビ、ゲーム機、スマホゲーム等の利用時間や利用方法などについて日常的に指導し、規則正しい生活が送れるようにする。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危機を予測し、自らの命を守る判断力を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約95%であり、指標90%及び市の平均92%を上回った。保護者も91%で指標を上回った。 ①③について実施した。 【次年度の方針】 ①③継続。 ②テレビ、ゲーム機、スマホゲーム等の利用時間が長い様子が見られる。家庭を巻き込んだ指導が必要。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 85%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。【A5①再掲】 ② キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約89%であり、指標85%を上回った。保護者の肯定的回答は約75%であり、指標に届かなかった。 ①②実施した。 【次年度の方針】 ①②継続。 ②新学習指導要領に基づき、年計に明記する。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →教職員 90%以上	① 研究主題「主体的・対話的で深い学びができる外国語活動」に基づき、授業研究会や職員研修の充実に努める。 ② 外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、気持ちや考えを表出し合えるようにする。 ③ 外国語活動の授業において、ALTと連携した望ましいT・TやICTの効果的な活用に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約91%、教職員は96%であり、指標90%及び市の平均89%を上回った。 ②クラスの興味関心をクイズにするなど、題材の工夫が効果的だった。 ③T・Tでは、担任がT1という意識が高まり、ALTと意思疎通がよりよくできるようになった。資料では、色使いや大きさ、見せるタイミングなどALTの技法を担任が吸収しつつある。 【次年度の方針】 ②③継続。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 社会科における市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等の充実を図り、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ② 教職員自ら、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等についての理解を深めるよう努める。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は約82%であり、指標85%に届かなかった。保護者の肯定的回答は約58%であった。市の平均は、児童81%、保護者58%である。 ①②十分とはいえなかった。 【次年度の方針】 ①宇都宮学や宮っ子ランチ等の市の施策を有効活用する。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 発達の段階に応じ、ICT機器や図書資料を活用した授業を意図的、計画的に行い、児童がそれらのよさを実感できるようにする。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であるのに対し、児童の肯定的回答は77%、保護者は約69%であり、指標85%に届かなかった。市の平均は、児童83%、保護者69%である。 ①②③実施した。 【次年度の方針】 ①ICTありきではなく、目的に応じた適切な活用をする。児童が、ICT機器や図書資料の有効性を実感できるよう、「使いたい、使うべき」という意欲や必要性を大切にする。 ②③継続。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 道徳科の授業において、日常生活との関連を図ったり、体験的活動を取り入れたりすることで、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2②再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。【A2③再掲】 ③ 生活科や総合的な学習の時間等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設ける。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約91%であり、指標85%及び市の平均88%を上回った。 ①②③実施した。 【次年度の方針】 ①②継続。 ③高齢者と一緒に遊んだり、高齢者から教わったりするなど、交流する機会をできる限り多く設ける。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 生活科や総合的な学習の時間において、SDGsを意識した授業に努める。 ② 東日本大震災をはじめとする災害に関する内容を授業に取り入れ、防災への意識を高める。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約86%であり、指標85%を上回った。教職員の肯定的回答は44%に留まっており、指標を大きく下回った。市の平均は、児童86%、教職員58%である。 ①③実施。②一部の学年で実施。 【次年度の方針】 ①②③継続。 SDGsについて職員研修等で意識の向上を行う。 生活科、総合的な学習の時間の年計に明記する。
B1 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自のアンケート「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 学級において、日常の場面を捉えて協力することの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。【A2①再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約94%であり、指標90%を上回った。 ①②実施した。 【次年度の方針】 ①②継続。 ②「きらりん」の活用方法について再考する。行事名の「きらりん」の意味を考えさせる、児童集会等で、「きらりん」についての発表を行う、など。

	B2 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】 独自のアンケート「私は、宿題や自主学習を計画的に行っている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示し、習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約80%であり、指標85%を下回った。保護者も約75%であり、指標80%を下回った。 ①宿題はやってくる児童がほとんどであったが、自主学習には個人差があった。学習シールなどにより、頑張りを可視化すると意欲が高まった。 【次年度の方針】 ①②「家庭学習のすすめ」をもとに、児童に繰り返し自学の内容を確認する。また、懇談会などで保護者にも同様に伝える。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 特別な支援が必要な児童に関する情報交換を日常的に行うとともに、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心として、特別支援委員会やケース会議等において共通理解を図り、組織的な指導に努める。 ② 特別支援学級の児童や通級児童等について、個別の支援計画を作成し、合理的な配慮を伴う指導に努める。 ③ 全児童に対して全教職員が共感的理解に基づく指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であった。 ①②③実施した。 【次年度の方針】 ①②③個別の支援計画を有効に活用したり、特別支援委員会やケース会議等において共通理解を図ったりするなどして、組織的な指導に努める。 ①特別支援委員会の在り方を検討、改善する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会、帰りの会、道徳科の授業、学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がける。 ② いじめに関するアンケート調査、「きらりんなんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議やブロック会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、緊急時にはいじめ対策委員会を実施する等組織的に対応する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は約99%であり、指標90%及び市の平均98%を上回った。保護者の肯定的回答は78%であり、昨年度よりも10ポイント低下した。保護者の市の平均は、79%である。 ①取組にやや学級差があった。 ②実施した。 【次年度の方針】 ①全教職員が足並みを揃えていじめは絶対に許さないという姿勢で指導する。教師自ら人権感覚の醸成に努める。 ②全教職員が積極的にいじめを認知し、組織的に対応していく。また、学級懇談会や便りを通していじめ対策の取組を知らせたり、連絡帳を活用して個々の事案に対応したりといったことを充実させる。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う場をつくってくれている。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 児童が認め合える場を意図的に設定するとともに、教職員も認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。【A5②再掲】 ② 「きらりんなんでも相談」、アンケート、QU調査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見に努めるとともに、不登校の兆候が見られる児童に関して日常的に情報交換を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は約96%であり、指標85%を上回った。 ①日々の生活の中で善い行いやがんばっている児童を率先して見つけ、情報を共有し合った。 ②アンケートを定期的に行い、不応傾向のある児童の早期発見に努め、組織的に対応した。 【次年度の方針】 ①②掲示物や便りを通して児童のよさを積極的に発信する。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 外国人児童や外国で生まれ育った児童について全教職員で共通理解を図り、実態に応じた指導を行うとともに、児童が互いの違いを認め合いながら生活できるような日常的な指導に努める。 ② 日本語指導ボランティアの活用や、かがやきルームでの対応を行うとともに、家庭との連携に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であった。 ①②本人の困り感に寄り添い、個別指導の充実を図った。 【次年度の方針】 ①②継続。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① 学校行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、児童の話をよく聞いたり児童に声をかけたりするなど、認め、励ます指導に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は約87%であり、指標90%及び市の平均89%を下回った。 ①②児童主体の様々な活動を実施し、児童が居がい・やりがいを感じて笑顔になるような場面が多く見られた。 ②学級によりやや差がある。 【次年度の方針】 ①②継続。 一人一人のよさを認め、自己肯定感を高める指導に全教職員で取り組んでいく。教師自ら、人権感覚の醸成に努める。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 85%以上	① T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行うとともに、個に応じた授業の展開を工夫する。 ② ICTなどの教育機器を効果的に活用したり、ペア・グループ学習等の学習形態を工夫したりすることで、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は約98%であり、指標85%及び市の平均96%を上回った。保護者の肯定的回答は82%であり、指標85%を下回った。 ①②実施した。 【次年度の方針】 ①②継続。 授業に対する児童の肯定感を保護者に伝える。例えば授業参観で発表形式ばかりでなく、「考える授業」を公開したり、児童が「できた」ことや「できるようになる」ためのアドバイスを個に応じて連絡したりするなど。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は約88%であり、指標85%を上回るとともに、昨年度より9ポイント上昇した。 ①「チーム岡北」が浸透し、教職員が進んで助け合う雰囲気ができている。若手教員をサポートする協力体制づくりにも力を入れた。 【次年度の方針】 ①②継続 ②教職員の得意分野を更に生かせるような組織運営に努める。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化と適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用にも努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は約84%であり、指標85%に届かなかったものの、昨年度より17ポイント上昇した。 ①②副校長や若手教員を中心に「働き方改革プロジェクト」を推進し、話し合いを重ねながら改善を図ったことで、教職員の意識に大きな変化が見られた。 ③ミライムを活用することで、業務の効率が上がった。 【次年度の方針】 ①②③継続する。 ②PDCAサイクルを生かし、年度途中でも積極的に改善を図っていく。 ③情報やデータの整理を徹底することで、更に効率を上げることができるようにする。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を行い、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、道徳科部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は約91%であり、指標85%及び市の平均88%を上回った。 ①食育・図書・保健等に関する地域学校園共通の取組や小中合同「あいさつ運動」などを実施し、多くの児童が参加することで意識が高まった。 ②部会によって活動に差があった。 【次年度の方針】 ①②継続。 ②今年度から各部会の長が3校の持ち回りになったので、次年度への引継ぎをしっかりと行い、部長が変わっても円滑に取組を進めることができるようにする。また、次年度は、乗り入れ授業（中→小）の復活を中学校に要望し、交流連携を一層強くする。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 85%以上 →地域住民 85%以上	① 地域協議会において、学校経営方針や課題となっている事案について積極的に説明し、地域住民の意見を反映させるとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。 ② 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を中心に見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は約85%であり、指標85%を達成した。地域住民の肯定的回答は100%であった。 ①②とも充実した取組を行っているが、情報が保護者に十分に伝わっていないと思われる。 【次年度の方針】 ②の取組について、「学校だより」だけでなく「学年だより」でも積極的に発信する。例えば、実際の活動の様子を便りの裏面に写真付きで掲載し、タイトルを強調するなど伝え方を工夫することで、保護者の意識をより高めるようにする。また、授業参観日以外でも授業を公開し、関心を高めるようにする。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 90%以上 →地域住民 90%以上	① PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画、実施し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。 ③ 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。【A22②再掲】	【達成状況】 保護者の肯定的回答は約85%であり、指標85%を達成した。地域住民の肯定的回答は100%であった。 ①PTA活動の回数が多いとはいえないので、家庭の参加意識が低くなる傾向があるのかもしれない。 【次年度の方針】 ①②③継続。 ②生活科や総合的な学習の時間を中心に地域教材・人材の見直しを図り、単元を再構成して授業の計画改善に努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上 →保護者 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も環境美化に努める。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等を計画的に実施するとともに、危機管理マニュアルを整備し、災害や不審者侵入等の不測の事態への備え及び、熱中症対策やインフルエンザ予防対策等を万全に行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%、保護者は89%であり、指標85%を上回った。 ①③実施した。 ②学級によりやや差があった。 【次年度の方針】 ①③継続。 ②掃除時間や掃除の仕方、教室環境（机の横にかけるものなど）について、共通認識のもと指導できるようにする。 ③マニュアルの整理、精選を行う。

	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 ８５％以上 →教職員 ８５％以上	① 児童用ＰＣや学習用ソフト等の整備に努めるとともに、それらの活用について必要に応じて研修の機会をもつ。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実に努める。【A10②再掲】 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。【A10③再掲】	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は１００％であるのに対し、児童の肯定的回答は７７％、保護者は約６９％であり、指標８５％に届かなかった。 ①不十分であった。②③実施した。 【次年度の方針】 ①教師や学年間の温度差をなくす。例えば児童用ＰＣの活用段階について、年間計画などに各学年の到達目標を明記する。
本校の特色・課題等	B3 教職員は、自分の考えを持ち、進んで表現し、学び合える児童の育成に努めている。 【数値指標】 独自のアンケート「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを、自分の言葉で表現している。」における肯定的回答 →教職員 ８０％以上 保護者 ８０％以上	① 自分の意見や考えを安心して表出できるような雰囲気づくりに努め、児童が必要を感じたり、関心・意欲を持って取り組んだりできる言語活動の場を意図的・計画的に設定する。 ② ノートや学習プリントに本時の振り返りを記入したり、発表ボードに自分の考えをまとめたりする活動を充実させ、意欲的に自分の意見や考えを表現できるようにする。 ③ 効果的なグループ学習を取り入れたり、テーマを決めて話す場を設定したりすることで、児童が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら学びを深める機会を確保する。【A1②再掲】	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は約９６％であり、指標８０％を上回った。保護者も指標を上回ったものの、８３％であった。 ①②③教職員は、言語活動の充実やコミュニケーション能力の育成に力を入れ、日々の授業に熱心に取り組んでいる。一方で、一部では、子どもの主体性が十分に活かされていない授業や子ども同士の学び合いが少ない授業も見られる。 【次年度の方針】 ①②③継続する。 次年度は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善について追究することを学校課題とし、今まで以上に児童の表現力や思考力を伸ばしていけるようにする。 授業参観やオープンスクールの機会に、児童の表現力の伸びや学び合いのよさを実感できるような授業を公開し、保護者の理解を深めるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・きまりの遵守について良好な結果であった。自己の言動を振り返る機会を今後も効果的に設定する。
- あいさつについて良好な結果であった。引き続き、家庭や地域と連携して心地よいあいさつの行き交う環境づくりに努める。
- ・宇都宮のよさについて指標に及ばなかった。教師が社会科や総合的な学習の時間を中心に「宇都宮学」を意識して指導するとともに、保護者へも積極的に発信していく。
- ・ICT機器、図書資料の活用について、教師の意識と児童・保護者の意識に差があった。さらに意図的な指導により、児童が必要感や有効性を実感できるようにする。
- いじめ対応について、児童は良好な結果であったものの、保護者の肯定的回答が減少した。全教職員が足並みを揃えて「いじめは絶対に許さない」意識をもつとともに、教職員自ら、人権感覚の醸成に努める。
- ・児童アンケート「私は今の学校が好きです」の肯定的回答が、指標、市の平均、昨年度の値ともに減少した。一人一人のよさを認め、自己肯定感を高める指導に全教職員で取り組む。
- ・地域の教育力を生かした活動について、保護者の肯定的回答が十分とはいえなかった。地域人材を生かした活動について「学年だより」などを通して積極的に発信していく。
- ・協力的な態度について良好な結果であった。「きらりん」の有効活用等により、引き続き育成する。

- ・学校課題「自分の考えをもち、進んで表現し、学び合える児童の育成」について、概ね良好な結果であった。次年度からの新たな学校課題により、「主体的、対話的で深い学び」に向けて、引き続き授業改善に努める。

7 学校関係者評価

【あいさつについて】（本学校園の重点であることを受けて）

- ・地域では、子どもたちから先にあいさつができていく姿もそうでない姿もある。全体的には、よくできている。10年前に比べると、とてもよくなってきている。
- ・「100番の家」の方から、「子どもはあいさつをしているが、その後ろで手招きをする保護者の姿がある」との話もある。声を掛けることと不審者の扱いをされてしまうこととのバランスを考えつつ、地域で大人が率先してあいさつするようにしていきたい。

【地域との連携について】（保護者の肯定的回答が高くないことを受けて）

- ・保護者ボランティアが集まらないところを地域ボランティアでサポートしている面があることも含め、子どもたちにボランティアの有難さをさらに伝えたい。
- ・保護者の評価が必ずしも高くなくても、子どもの活動に貢献することができればよいのではないだろうか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学び合う子】

- ・昨年度に引き続き、進んで授業に取り組む態度が身に付いている。「分かりやすく丁寧な授業」に対する児童の肯定的回答の割合も高い。来年度の学習指導要領全面実施に向けて、「主体的、対話的で深い学び」が実現するよう、授業改善に取り組んでいく。特に、児童が思いや考えを進んで表出し合いながら思考を深めていけるよう、必然性のある単元展開や学習課題の設定、思いや考えを交流し合える学習集団の醸成、児童の主体的な学習活動を促す支援などについて検討し、実践する。
- 家庭学習について、地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」が定着し、ほとんどの児童が決められた宿題にまじめに取り組むことができた。個々の実態や興味関心に沿った自主学習については、まだ個人差が見られる。家庭の協力も得ながら推進する。
- ・ICT機器や図書資料の活用について、教師の肯定的回答と、児童、保護者の肯定的回答の割合に差が見られた。児童がICT機器や図書資料の有効性を実感し、主体的に活用できるような授業づくりと、保護者への情報発信に努める。

【助け合う子】

- ・思いやりのある言動ができる児童や協力的な態度が身に付いている児童が多い。学級での係活動や児童会活動、縦割り班活動などが充実していることの成果であると考えられる。これらの取り組みを今後も継続していく。
- あいさつについての肯定的回答の割合が高い。今後も、本校独自のあいさつ運動（毎週水曜日の活動、あいさつ殿堂入り、運営委員による呼びかけなど）や、地域・学校園と共に行うあいさつ運動を継続する。加えて、保護者も巻き込んだあいさつの啓発を考えていく。
- ・いじめ対策については、アンケート調査、「なんでも相談」、「いじめゼロ集会」、ケース会議、ブロック会議などにより未然防止、早期発見に努めた結果、良好な結果となった。しかし保護者の肯定的回答は低下している。今後も、いじめは絶対に許されない行為であることを全教職員が足並みを揃えて指導するとともに、教職員自らの人権感覚の醸成に一層努める。

【鍛え合う子】

- ・夢や目標をもって、あきらめずに努力する心情や態度について概ね育っている。しかし、保護者の肯定的回答は、児童や教職員の肯定的回答を下回っている。今後も、全教職員が認め励ます指導に努めるとともに、学校での望ましい姿を家庭に伝える機会を大切にする。また、キャリアパスポートを活用し、学習や活動内容の記録と振り返りを、新たな学習や活動への意欲につなげることができるようにする。
- ・健康や安全に配慮した生活態度が身に付いている児童が多い。きまりを守る意識も高い。今後は、危機を予知し自らの安全を守る主体的な態度や、ゲーム機やスマホ等に対しての自制心を育てるために、家庭と連携しながら指導していく。

